



シラバス登録 プレビュー



選択したシラバスのプレビュー画面です

平成29 年度 [操作ボタン](#)

講義科目名称： 課題発見・解決演習（子どもイベント編）
英文科目名称： ---

授業コード： 80197

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期: 曜無時無			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
長瀬 美子、岡島 克樹			
日DP4,歴DP5	幼DP5,学DP5,特DP5	人DP4,SDP1・2	

授業テーマ	グループで子育てをテーマにしたイベントを企画することをつうじて、社会課題に対する当事者意識と社会人・市民として求められる基礎力を養う。
講義概要	今日の社会は急速に変化し、知識の賞味期限がこれまでに早く訪れる時代が到来している。そのような社会にあっては、(過去や現在の研究者の研究成果である「専門知識」を学ぶことはなお大事なことであるが、同時に)自分で課題を探し、それをどのように解決するのか、他人と協働しながら考え抜き実施していく「社会人基礎力」あるいは「ジェネリックスキル」と呼ばれる技能がますます求められるようになってきている。そのため、本講は、アクティブラーニングとして授業展開し(1)「考える」ということはどうということなのかを改めて考える講義を行うのみならず、(2)実際にグループで考え抜くという経験をする機会を提供する。より具体的には、テキストにあるフォーマットにしたがって子ども達を対象としたイベント案をグループで企画し、結果を発表し、コメントを得て、また考え抜くというプロセスを体験する。
到達目標	(1) 社会人基礎力、とくに「考える力」とはどのような要素から成り立ち、どうすれば向上させることができるのかを理解できる。 (2) 「よい」企画とは何かを理解して、それにもとづいて企画を立て、発表することができる。 (3) 自身の社会人基礎力について評価し、今後どのように向上させていくのか、P D C Aできる。
評価方法・フィードバックの方法	【評価方法】 (1) 授業2日目最後に行う確認テスト(20%) (2) 授業3日目に行うグループ発表(30%) (3) 個人レポート(50%) 【フィードバックの方法】 ・本講では、学生のグループワークが多くあるが、その際には教員は机間指導を行うとともに、必要に応じて、学生からの質問や学生が直面している課題を教室全体で共有する等する。 ・授業内の小テストは、その場で採点し、多く誤りが出た箇所があれば、教室全体で再度解説を行う。 ・レポートについては、ルーブリックを作成し、それにもとづいて採点し、結果を学生と共有することで、どこが自分のレポートの弱点であるかが理解できるように促す。
評価基準	(1) 社会人基礎力、とくに「考える力」の重要性や構成要素について問う穴埋め問題の正解の数 (2) 「よい」発表に関するルーブリックにもとづく採点(評価基準は①日本語の適切さ、②構成(全体・ラベル)、③内容(ユニークさ・ニーズとの合致・現実性・主張の根拠)であるが、優・秀・良、可の細かい区別については授業中に配布するルーブリックを参照してください) (3) 個人レポートでは、本講で経験したこと(概要)、そこから得た学び(とくに自分の社会人基礎力についての学び)、今後、どのように成長させていくか、その計画を書いてもらうが、その評価については「よい」レポートに関するルーブリックにもとづく採点(評価基準は①日本語の適切さ、②構成(全体・ラベル)、③内容(深さ・広さ・ルールの遵守)であるが、優・秀・良、可の細かい区別については授業中に配布するルーブリックを参照してください)
テキスト	受講者には文部科学省「平成20年度戦略的学術連携支援事業」選定「実践力のある地域人材の輩出」プロジェクト共同キャリア教育・FD委員会編(2010)『パワーアップ・プラクティス講座 ワークブック こんな子どもイベント ほしかってん』を無料配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	(1) 本講は集中講座として開講され、7月8日(土)に1回目から5回目を、合宿研修として7月29日(土)~7月30日(日)に6回目から15回目を実施する。合宿研修(場所は学内ウェルネスセンターを利用)にはシーツ代432円と夕食代500円、計932円が必要で、7月8日に徴収する。当日はおつりのないように持ってきてください(朝食や昼食は各自コンビニ等で購入してください)。 (2) 本講には定員がある。定員を超過した場合、抽選を行うことがある。毎年、抽選を行って選抜したにもかかわらず、初回の授業すら欠席する学生がいる。抽選により受講できなくなった学生の気持ちを思いやり、目的意識をもって受講するようにしてください。
準備学習<予習・復習の時間・内容>	2単位の修得には、2時間×15回の授業の他に合計60時間(4時間×15回)の事前事後の学習が必要である。45時間の事前学習(予習)と15時間の事後学習(復習)を目安に学習に取り組んで下さい。とくにこの授業では、とくに7月8日に課題を出すことがあり、その課題の結果は7月29日~30日の合宿研修に活かすので、自宅で十分な時間を取り組むようにしてください。
オフィスアワー等	火曜日3限 研究室で質問に対応する。(長瀬) 木曜日1限 研究室で質問に対応する。(岡島) 授業中ないしは終了時に質問に対応する。
備考・メッセージ	(1) 本講は、講義もあるが、グループワークを軸として展開されるものである。グループに対して一人ひとりが持つ役割や責任を意識しながら講座に臨んでください。 (2) 本講にはその発展編として「P P 講座Ⅱ(思考編)」という講座がある。この講座はさらに論理的思考力を磨くチャンスを提供する目的で開講され、本学も加盟する南大阪地域大学コンソーシアムを構成するさまざまな大学の学生と一緒に学んで学ぶ科目である。本学の教員も講師陣にはいて指導を担当しているの、ぜひ安心して参加するようにしてください。

授業計画				
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標
1	演習	岡島	オリエンテーション・「子育て資源の最近の動向」と題するレクチャー<7月8日>	本講の学習到達目標や意義、スケジュールが理解できる。
2	演習	岡島	班分け・アイスブレイク<7月8日>	ともに学ぶ仲間を知り、学習共同体の基礎をつくることできる。
3	演習	長瀬		

			子どもイベントに関するビデオ視聴およびその解説（1）＜7月8日＞	子どもイベントとはどのようなものか、とくに発達段階に応じたさまざまな工夫という観点から理解することができる。		
4	演習	長瀬	子どもイベントに関するビデオ視聴およびその解説（2）＜7月8日＞	子どもイベントとはどのようなものか、とくに発達段階に応じたさまざまな工夫という観点から理解することができる。		
5	演習	長瀬	子どもイベントについて学んだことを自己化するためのふりかえりセッション＜7月8日＞	子どもイベントとはどのようなものか、とくに発達段階に応じたさまざまな工夫という観点から理解することができる。		
6	演習	長瀬・岡島	徹底分析シートへの記入＜7月29日＞	イベントを企画する前提である子どもイベントとは何か、その社会的な期待やライバルなど、基本情報を整理して認識できる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
7	演習	長瀬・岡島	徹底分析シート・企画シートへの記入＜7月29日＞	イベントを企画する前提である子どもイベントとは何か、その社会的な期待やライバルなど、基本情報を整理して認識できる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
8	演習	岡島	「考える」とは何か」と題するレクチャー＜7月29日＞	論理的思考とはどのようなものか、「分ける」「広げる」「確かめる」という3要素を踏まえ、簡潔に説明できる。		
9	演習	長瀬・岡島	企画シートへの記入＜7月29日＞	子どもイベント企画に必要なさまざまな事項に注意しながら、企画することができる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
10	演習	長瀬・岡島	プレゼンテーションシートへの記入・発表・授業内テスト＜7月29日＞	発表に必要な要素（5W1H）とはなにかが実感をもって理解できる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
11	演習	長瀬・岡島	「パワーポイントの作成のコツ」と題するミニレクチャー・パワーポイント作成＜7月30日＞	発表に必要な要素（5W1H）とはなにかが実感をもって理解できる。 パワーポイントによる発表技術が向上する。		
12	演習	長瀬・岡島	発表練習会・教員コメントの付与・「よい」企画とはなにか」と題するミニレクチャー＜7月30日＞	パワーポイントによるよい発表とはどういうものか、知識を獲得できる。		
13	演習	長瀬・岡島	パワーポイントの修正＜7月30日＞	パワーポイントによる発表技術が向上する。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
14	演習	長瀬・岡島	最終発表会（外部講師によるコメントを含む）＜7月30日＞	パワーポイントによる発表技術が向上する。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。 子どもイベントに関する地域のニーズ、子どもイベントの奥深さについて認識できる。		
15	演習	長瀬・岡島	ふりかえりセッション・レポート作成＜7月30日＞	自身が本講全体の学習到達目標をどのくらい達成できたのか、より明確に認識できる。 今後、大学における学びの設計に本講義での経験を生かせるよう計画できる。		

授業方法

学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
演習	教室	2		90分×15

閉じる